

# Invariants of cusps and the dimension formula

東北大教養 尾形 庄悦

序.  $C \subset \mathbb{R}^n$  を自己双対, 等質, 開凸錐とし,  $G = \{g \in GL_n(\mathbb{R}) \mid gC = C\}$  とする。このとき  $n$ -次元領域  $\mathcal{O} = \mathbb{R}^n + \sqrt{-1}C$  は対称領域となる。この正則自己同型群の単位元を含む連結成分を  $\tilde{G} = (\text{Hol } \mathcal{O})^\circ$  とおくと,  $\tilde{G}$  はエルミート型の半単純リー群となる。  $r = \text{R-rk } \tilde{G}$  とする。  $\mathbb{Q}\text{-rk } \tilde{G} = 1$  となるように  $\mathbb{Z}^n \subset \mathbb{R}^n$  をえらぶ。この有理境界点  $\sqrt{-1}\infty$  に対応する  $\tilde{G}$  の放物部分群  $\mathcal{P}$  は  $G \times \mathbb{R}^n$  と同型になる。

$\tilde{G}$  の neat 算術部分群  $\tilde{\Gamma}$  を選ぶと局所対称領域  $\tilde{\Gamma} \backslash \mathcal{O}$  は有限個の点  $\{P_1, \dots, P_n\}$  を付け加えてコンパクト化できる。

$Y^* = (\tilde{\Gamma} \backslash \mathcal{O}) \cup \{P_1, \dots, P_n\}$  (佐武-Baily-Borel コンパクト化)。

$P_i = \sqrt{-1}\infty$  とする。  $\pi: Y \rightarrow Y^*$  を特異点解消とすると, 例外因子  $D$  は連結成分  $D^{(1)}, \dots, D^{(h)}$  の和に分解する。  $D^{(i)} = \pi^{-1}(P_i)$ 。

$\tilde{\Gamma}$  の重み  $k$  をもつカスプ型式全体を  $S_k(\tilde{\Gamma})$  で表わすとき, その次元はリーマン-ロッホの定理を使って計算できる。

$$\dim S_k(\tilde{\Gamma}) = \dim H^0(Y, L^{\otimes k} \otimes \mathcal{O}_Y(-D)).$$

更に, これは,  $F \setminus \emptyset$  の体積に比例する普遍係数をもつ  $n$  次の  $k$  の多項式  $P(k)$  と各  $D^{(i)}$  から決まる不変量  $\chi_{\infty}(P_i)$  の和として表わされる。i.e.,

$$\dim S_k(\tilde{F}) = P(k) + \sum_{i=1}^h (-1)^n \chi_{\infty}(P_i).$$

一方, ヒルバート-モジュラ-群の時 ( $r=n$ ,  $C=(\mathbb{R}_{>0})^n$ ), セルバ-グの跡公式により

$$\dim S_k(\tilde{F}) = P(k) + \sum_{i=1}^h 2^{-r} L_i(s) \Big|_{s=\frac{n}{2}}$$

と表わされる。  $L_i(s)$  は清水の  $L$ -関数の定数倍で, 境界点  $P_i$  に対応する有理放物部分群  $P_i$  により定義される。

この二つの公式より,

$$\sum_{i=1}^h (-1)^n \chi_{\infty}(P_i) = \sum_{i=1}^h 2^{-r} L_i(s) \Big|_{s=1}$$

が判る。このことから, Van der Geer は  $(-1)^n \chi_{\infty}(P_i) = 2^{-r} L_i(s) \Big|_{s=1}$  と予想した。 Hirzebruch は  $L_i(s) \Big|_{s=1}$  が  $P_i$  の符号数不足指数 (signature defect)  $\sigma(P_i)$  と一致すべきだと予想し, Atiyah, Donnelly-Singer により, また Müller により証明された。

この予想と定理はヒルバート-モジュラ-群の場合だけを扱っている。一般の場合を考えたい。

$\mathbb{R}^m$  上の  $r$  次の多項式関数で,  $g \in G$  に対し,  $N(gv) = (\det g)^{\frac{r}{m}} N(v)$   $v \in \mathbb{R}^m$  を満たすように "ノルム"  $N$  を定める。  $S = \{N=0\}$  を特異集合とすると,  $\mathbb{R}^m \setminus S = \bigsqcup_{i=0}^m C_i$  と分解する。  $C_0 = C$  とする。佐藤-新谷の概均質ベクトル空間の理論によれば,

$$\zeta_i(M, s) = \sum_{\alpha \in \Gamma \backslash M \backslash C_i} \frac{\mu(\alpha)}{|N(\alpha)|^s}$$

ゼータ関数を定めると,  $\zeta_i$  は関数等式を満たす。佐武は  $\zeta_i$  の一次結合  $L(M, s)$  で単独で関数等式を満たすものを見つけた。

定理 (佐武)  $L(M, 0) = 2^r \zeta_0(M, 0)$ .

結局, Van der Geer と Hirzebruch の予想を一般化して, 二つの等式

$$\zeta_0(M^*, 0) = (-1)^n \chi_\infty(p_1),$$

$$\zeta_0(M^*, 0) = 2^{-r} \sigma(p_1) \quad (n \text{ は奇数})$$

が成立するかどうかという, 局所的問題に定式化される。

### 1. 凸錐のゼータ関数

$M \cong \mathbb{Z}^n$ ,  $M_{\mathbb{R}} = M \otimes \mathbb{R}$  とする。自己双対とも等質とも限らない開凸錐  $C \subset M_{\mathbb{R}}$  と部分群  $\Gamma \subset GL(M)$  の組で条件

(i)  $gC = C \quad \forall g \in \Gamma,$

(ii)  $\Gamma$  は  $C/\mathbb{R}_{>0}$  上固有不連続, 固定点なしに作用する,

(iii) 商  $\Gamma \backslash C/\mathbb{R}_{>0}$  はコンパクト

を満たすものを考える。

$\langle, \rangle: M^* \times M \rightarrow \mathbb{Z}$  を自然な pairing とし,  $C$  の双対錐を  $C^* = \{y \in M^*_{\mathbb{R}}; \langle y, x \rangle > 0 \quad \forall x \in C \setminus \{0\}\}$  で定める。  $C$  の特性関数を  $\phi(x)$  とする。このとき, 凸錐  $C$  のゼータ関数を

$$\Sigma(C, M; s) = \sum_{\alpha \in \Gamma \backslash M \cap C} \phi_\alpha(x)^s$$

で定める。

定理 (i)  $\Sigma(C, M; s)$  は全平面へ有理型に解析接続される。

(ii)  $s=0$  で正則, かつ, その値は  $\Gamma \backslash C \cup \partial C$  の錐分割の言葉を用いて表わされる。

(iii) (石田)  $\Sigma(C, M; 0) \in \mathbb{Q}$ .

注意  $C$  が等質, 自己双対錐のとき,  $\phi(x)$  は  $N(x)^{-n/r}$  の定数倍であるから,  $\Sigma(C, M; 0) = \xi_0(M, 0)$ .

## 2. 幾何的不変量

$\mathcal{O} = M_{\mathbb{R}} + \sqrt{-1}C \subset M_{\mathbb{C}}$  は  $n$ -領域で,  $V = \Gamma \backslash M \setminus \mathcal{O} \cup \Gamma \backslash \partial \mathcal{O}$  は孤立特異点  $p = \sqrt{-1} \infty$  を持つ正規解析空間である。この  $(V, p)$  を土橋カスプと呼ぶ。トロイダル埋込みを用いて, 特異点解消  $\pi: (U, X) \rightarrow (V, p)$  を例外因子  $X$  が単純正規交叉のみをもつようにとる。  $X = \sum_{i \in I} X_i$ . 各  $X_i$  の定める類を  $\delta_i \in H^2(U, \partial U; \mathbb{Z})$  とする。

定義(佐武) (i)  $\chi_\infty(p) = \left[ \prod_{i \in I} \frac{\delta_i}{1 - e^{-\delta_i}} \right]_m [U, \partial U] \in \mathbb{Q}$ .

(ii)  $\sigma(p) = \left[ \prod_{i \in I} \delta_i \coth \delta_i \right]_m [U, \partial U] - \text{sign}(U, \partial U)$ ,

ここに,  $\text{sign}(U, \partial U)$  はカッパ積  $H^m(U, \partial U) \otimes H^m(U) \rightarrow H^{2m}(U, \partial U)$  により定まる  $H^m(U, \partial U; \mathbb{R})$  上の二次形式の符号数を表わす。

## 3. 結果

定理 (石田)  $(V, p)$  が  $(C, \Gamma, M)$  により定まる偶数次元の  
カスプのとき,

$$\chi_{\infty}(p) = Z(C^*, \Gamma, M^*; 0).$$

定理  $n$  が偶数のとき,

$$\chi_{\infty}(p) = 2^{-n} \sigma(p).$$

この定理の証明には,  $\text{sign}(U, \partial U)$  を  $X_J = \bigcap_{j \in J} X_j$  ( $J \subset I$ ) 上の  
ある二次形式の符号数の和で表わす公式が使われる。

## 4. 発展

$\phi$  が チューブ領域でない場合, 例えば  $m$ 次元複素単位球  
 $B^m = \{z \in \mathbb{C}^m \mid \|z\| < 1\}$  の直積  $\phi = (B^m)^r$  ( $r > 1$ ) の場合にも,  
 $F \setminus \phi$  に有限個の点を付け加えてコンパクト化できることがある。  
このようなカスプ特異点  $p$  に対しても,

定理  $n = mr$  が偶数のとき,

$$\chi_{\infty}(p) = 2^{-n} \sigma(p).$$

問題 §3での石田の定理に相当する等式を見つけたら。

## 参考文献

1. I. Satake and S. Ogata, Zeta functions associated to cones and their special values, *Adv. Stud. Pure Math.* vol. **15**, pp. 1-27(1989).
2. M.-N. Ishida, The duality of cusp singularities, *Math. Ann.* **298**, 81-97(1992).
3. S. Ogata, Hirzebruch's conjecture on cusp singularities, to appear in *Math. Ann.*
4. S. Ogata, Signature defects of Hilbert-Picard modular cusps, to appear in *Math. Z.*
5. H. Tsuchihashi, Higher dimensional analogues of periodic continued fractions and cusp singularities, *Tohoku Math. J.* **35**, 607-639(1983).